

地雷被害から考える平和への道

藤岡市立東中学校

三年 片貝 葵

私は、ある展示物の前からしばらくの間、動くことができなかった。

私は中学2年生の夏休みに、NJIICA地球ひろばという施設を訪れました。その施設では、環境問題や開発途上国の現状などが紹介されていて、世界が直面する様々な課題を学ぶことができました。その中で、私の心に一番突き刺さった物、それは地雷です。地雷とは、地中に埋め、その上を人・戦車などが通ると爆発する仕掛けの爆薬です。缶詰の缶のような形をしており、小さい物の直径は五〜十五センチほどです。しかし、展示されている地雷の中には、直径三十センチを超えるようなかなり大きな物もあり、異様な威圧感を覚えました。初めて見る地雷を前に、私はしばらくの間そこから動くことができず、以前母から聞いた曾祖父のことを思い出していました。

私の曾祖父は第二次世界大戦中、陸軍に入隊し、戦地でた

くさんの辛い経験をしてきたそうです。ある日、隊列を組んで進軍していた時のことです。自分の前を歩いていた人が地雷を踏んでしまい、爆発によって手足が飛ばされてしまいました。動けなくなったその人は、仲間にも自分のことを「殺してくれ」と言ったのです。苦しむ仲間を目の前に、何もできない無力感と、自分も地雷を踏んでしまうかもしれないという恐怖。この二つの感情と戦いながら、曾祖父は何人の仲間を失ったのでしょうか。

これは、八十年前の、第二次世界大戦中の話ですが、地雷は今もなお戦争に使われています。そして地雷は、たとえ戦争が終わっても、そこに残り続けます。撤去は、重機を使った手作業で行われるため、危険性が伴います。戦争とは関係のない一般市民はもちろん、地雷の撤去作業をしていた人達も被害に遭っているのです。

なぜ、このように、何の罪もない人達が、いつまでも安心して暮らすことができない場所があるのでしょうか。それは全て、戦争のせいです。私は、第二次世界大戦で多くの国が戦争の愚かさに気づき、これから世界は平和に向かって進んでいくのだと思っています。しかし、そんなことはありません

せんでした。例えば、ロシアがウクライナに侵攻して、もう三年以上経ちますが、未だこの戦争には終わりが見えていません。毎日のようにウクライナのどこかの地区が爆撃され、死傷者が多数出たというニュースが報道されており、それを見ると心が痛みます。どうして戦争は繰り返されてしまうのでしょうか。

私は、攻撃に対して攻撃で返すからだと思います。ウクライナ戦争がなぜ起きたかを調べてみました。すると、ロシアがウクライナの資源を欲していただけではなく、自国とウクライナに住むロシア系の住民を守るために、ウクライナへの軍事侵攻を始めたことが分かりました。攻撃する側にも正義はあるのです。しかし、戦争あつての平和はあり得ません。互いの正義を守るために、コミュニケーションをしつかりとって、信頼関係を築いていくことが重要だと思います。

戦争を体験した人は年々減っています。それと同時に、戦争の悲惨さ、平和である今」のありがたみに対する意識が薄れています。自国に不利益な事柄が生じたとき、「戦争で解決すればいい」と考えてしまう人が出ないとも限りません。だからこそ、私達若い世代は、世界で起こっていることに目

を向けて、様々なことに関心をもつべきなのです。私が母から曾祖父の話を聞いたように、得た知識や、それについての考えを他の人達に伝えていく必要があるのです。武力ではなく、対話で平和を築けるように。

まずは、身近な人に平和の大切さや平和への取り組みを伝えていこうと思います。そうすれば、平和な世界に向けて行動する人が増えると、私は信じています。小さなことも知れないけれど、それがいつしか平和への道になると信じて。